

地域公共交通網形成計画の達成状況の評価について

1. 地域公共交通網形成計画の達成状況の評価について

本計画に位置づけた公共交通活性化に係る数値目標、基本方針に掲げた事項の達成状況をモニタリングするための調査を下記の表内の頻度のとおり実施し、本協議会において達成状況の評価を行うこととしている。

(1) 数値目標に対する調査

公共交通活性化に係る数値目標	目 標 平成 3 7 年	調査方法	頻 度
公共交通 1 日平均利用者数の 富山市人口あたりの割合	1 5 . 9 % (64,198 人/403,000 人)	事業者データを集計 (交通事業者および富山市)	年 1 回

(2) 基本方針に対する調査

基本方針	調査項目	調査方法	頻 度
基本方針① 公共交通軸の活性化によるコンパクトなまちづくりの実現	路面電車市内線 1 日平均乗車人数	事業者データを集計。将来的には、IC カードデータを活用 (交通事業者および富山市で実施)	年 1 回
	定期路線バスの 1 日平均乗車人数	事業者データを集計。将来的には、IC カードデータを活用 (交通事業者および富山市で実施)	年 1 回
基本方針② 地域特性に応じた多様な生活交通の確保	郊外部居住者（富山中央地域以外）の公共交通分担率	市民アンケート調査 (富山市で実施)	5 年に 1 回程度
	公共交通空白地域の人口	GIS により、住民基本台帳ベースの人口データを用いて算出（富山市で実施）	5 年に 1 回程度
基本方針③ 公共交通利用促進	公共交通を週 1 回以上利用する市民の割合	市民アンケート調査 (富山市で実施)	5 年に 1 回程度
	IC カードによる公共交通の利用割合	事業者データを集計 (交通事業者および富山市で実施)	年 1 回

2、公共交通の活性化に向けた基本方針における交通施策について

本計画の各基本方針における、平成28年度の主な交通施策の取り組みは、次のとおりである。

(1) 基本方針①公共交通軸の活性化によるコンパクトなまちづくりの実現

1) 鉄軌道活性化計画

①新型車両の導入

市内電車の質の高いデザインや騒音・振動の軽減による快適性の向上、バリアフリー化の推進などによる公共交通の活性化を図るため、富山地方鉄道株式会社の新型低床車両（LRV）の導入を進めている。

なお、現在まで3編成の導入を行い、平成29年度内に新たに1編成を導入予定であり、平成33年度までに2編成の導入を計画している。



T100 形（H25.2 導入）



T100 形（H27.3 導入）

②JR高山本線の増便

平成18年10月～平成23年3月に、JR高山本線活性化社会実験として増便や臨時駅の設置などを実施した。

社会実験終了後は西日本旅客鉄道株式会社と連携し、活性化事業として7便の増便を継続している。

③富山地方鉄道不二越・上滝線の増便

通勤時間帯での増発社会実験を実施し、平成23年9月より帰宅時間帯の増便および終電時刻を延長し、平成25年9月には朝の増便を開始した。

社会実験終了後の平成27年4月から富山地方鉄道株式会社が、58本／日（平日）の運行を引き続き実施している。

2) 幹線バス活性化計画

①サイクル&バスライド駐輪場

バス停周辺にサイクル&バスライド駐輪場を整備し、利用圏域の拡大を図るモデル事業を実施した。

平成28年度に高原町、中市、分田、呉羽、四方神明町バス停の5箇所を整備した。なお、平成29年度は針原新町、赤田、藤代町、金代バス停の4箇所が整備済みである。

サイクル&バスライド実施箇所一覧

	バス停名称	サイクル&バスライド駐輪場の場所	利用可能台数
平成 28 年度	高 原 町	市営高原町団地まえ（高屋敷823－15）	約10台
	中 市	山室地区センターよこ（資源物ステーション内）（中市二丁目8－76）	約10台 ※平日のみ
	分 田（ 婦 中 ）	分田バス停そば（市道田島鵜坂線交差点わき）（婦中町羽根新地内）	約10台
	呉 羽	呉羽会館駐輪場（呉羽町2920）	約6台 ※平日のみ
	四方神明町・田町	四方地区センター駐輪場（四方142－1）	約5台
平成 29 年度	針 原 新 町	市営針原団地駐車場内（針原中町305）	約5台
	赤 田	市消防団蜷川分団敷地内（赤田418－3）	約10台
	藤 代 町	開公民館駐輪場（開254－2）	約6台
	金 代	金代公民館駐輪場（金代298）	約6台



分田バス停駐輪場



赤田バス停駐輪場

（２）基本方針②地域特性に応じた多様な生活交通の確保

1）生活交通サービス整備方針

①生活バス路線（民間赤字路線）の維持

市民生活にとって重要な生活バス路線は、国・県・市の補助要綱に基づき、路線の維持に努めており、平成28年度には国の要綱によるもの2路線、県の要綱によるもの10路線に補助を実施した。

②公営コミュニティバス等の効率的な運行

八尾地域・山田地域を運行するコミュニティバスの運行ルートやダイヤを見直したほか、大山地域を運行するコミュニティバスの現状と課題について地域に提示し、望ましいルートやダイヤについて、地域とともに検討していくこととした。

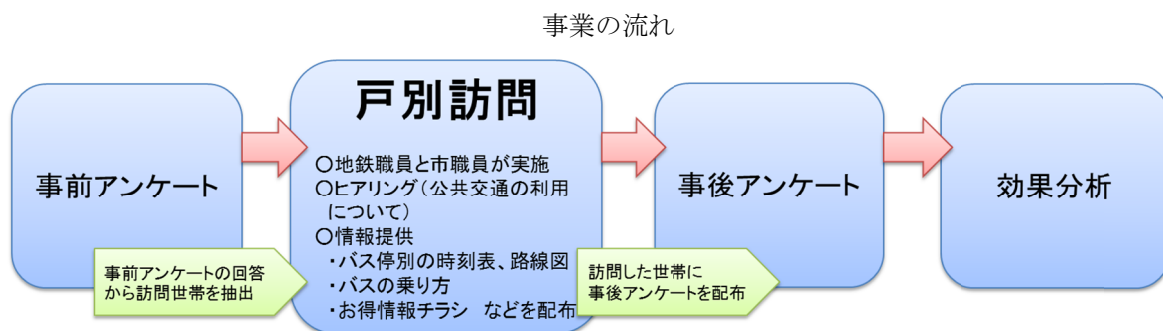
（３）基本方針③公共交通利用促進

１）公共交通の利用促進

①モビリティ・マネジメントの計画的実施

戸別訪問の実施

公共交通沿線の人口が多いにもかかわらず、公共交通の利用が著しく少ない地区を対象とし、戸別訪問（交通事業者及び市職員が実施）による情報提供やアンケートにより啓発を行っている。



【平成２８年度】

中市・分田バス停それぞれから 500m圏域の世帯（約 4,500 世帯）

【事前アンケート回収率】

	配布数	回収数	回収率（世帯）
中市地区	2,800 世帯（5,600 枚）	530 世帯（773 枚）	19%
分田地区	1,700 世帯（3,400 枚）	384 世帯（599 枚）	23%
合 計	4,500 世帯（9,000 枚）	914 世帯（1,372 枚）	20%

【戸別訪問数】

	訪問世帯数
中市地区	136 世帯
分田地区	69 世帯
合 計	205 世帯



【バス利用者数（平成 28・29 年度の 4～8 月比較）】

※定期及び S F の総利用者数

	利用者数増
中市地区（中市バス停他 周辺 3 バス停）	約 700 人／月の増
分田地区（分田バス停他 周辺 2 バス停）	約 240 人／月の増
合 計	約 940 人／月の増

② I Cカードの多様な活用（学生証の拡大）

富山大学学生証への I Cカード機能付与（平成 2 5 年 4 月～）については、公共交通利用促進に対する効果が示されており、平成 2 8 年度においては、平成 2 9 年度に新設する専門学校等への I Cカード機能付き学生証の導入に向け準備を行った。

（参考）専門学校学生証への I Cカード機能付与

平成 2 9 年度においては、公共交通の利用促進及び中心市街地の活性化を目的とし、市内電車環状線沿線等に立地する専門学校に対し、新たに交通 I Cカード（えこまいか）の機能を付けた学生証を導入した。

【対象校】

No.	学 校 名	学生数（人）
1	富山大原簿記公務員医療専門学校（移転・新設）	3 5 0
2	富山リハビリテーション医療福祉大学校（新設）	8 0
3	富山調理製菓専門学校（新設）	8 0
4	富山市医師会看護専門学校（移転・新設）	3 6 0
5	富山市立富山外国語専門学校（既設）	9 5

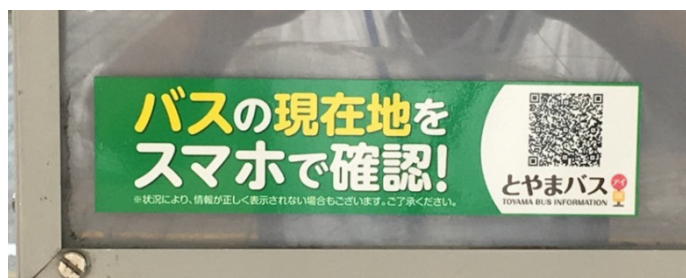


学生証デザイン（富山市立外国語専門学校）

③ I C Tを活用した公共交通機関のロケーション情報などの配信

富山地方鉄道株式会社がインターネットで提供している路線バスの位置情報システム「とやまバス i」にスマートフォン等で容易にアクセス出来るよう、バス停に Q Rコード付きステッカーを掲示し、利用者の利便性の向上とバスの利用促進を図った。（平成 2 8 年度 市内バス停 1 6 9 バス停に掲示）

<とやまバス i 平成 2 8 年度 年間アクセス数：約 4 3 3, 0 0 0 件（富山エリア）>



市役所前バス停

2) 交通によるおもてなし環境の創出

①公共交通従事者によるおもてなしの向上（マナーアップ）

☆富山地方鉄道株式会社：安全・安心、笑顔であいさつキャンペーン

平成28年度から、富山地鉄北斗バス㈱に所属する従事者も含めた全社員に、マナーアップに向けた取組みとして、「安全・安心、笑顔であいさつキャンペーン」を実施している。

【実施内容】

- ・お客様に感謝とおもてなしの心をもって、率先して笑顔であいさつする。
- ・優しい言葉使い、端正な服装、節度ある態度で対応する。
- ・親切、丁寧、分かりやすく案内する。
- ・車両、施設等の環境美化清掃を心掛ける。
- ・沿線及び県内観光地並びに主要施設の知識を深める。

【実施期間】

- ・平成28年 4月25日（月）～ 5月31日（火） 37日間
- ・平成28年 7月 1日（金）～ 7月18日（祝） 18日間
- ・平成28年10月 1日（土）～10月16日（日） 16日間
- ・平成29年 1月 1日（祝）～ 1月15日（日） 15日間



キャンペーンポスター

3、数値目標に対する調査結果について

(1) 公共交通 1 日平均利用者数の富山市人口あたりの割合について

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
公共交通 1 日平均利用者数の富山市人口あたりの割合 計 画 目 標	13.7%	14.8%	14.9%
公共交通 1 日平均利用者数の富山市人口あたりの割合 実 績	13.7%	14.9%	15.1%
公共交通 1 日平均利用者数	57,353 人／日	62,360 人／日	63,006 人／日
富山市人口（12 月時点）	419,849 人	419,123 人	418,304 人

あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道の鉄道、富山ライトレールにおける平成 28 年度の公共交通 1 日平均利用者数は、前年に比べ横ばいの状況であったが、富山地方鉄道の軌道・バス、J R 高山本線において、それぞれ利用者数が増加した結果、公共交通 1 日平均利用者数は 62,360 人／日（H27）から 63,006 人／日（H28）へ約 1.0% 増加した。また、12 月時点での富山市人口については、419,123 人（H27）から 418,304 人（H28）へ約 0.2% 減少した。

このことから、公共交通 1 日平均利用者数の富山市人口あたりの割合は 14.9%（H27）から **15.1%**（H28）へ 0.2 ポイント増加し、計画目標（14.9%）を上回ることとなった。

4、基本方針における交通施策の達成状況について

富山市地域公共交通網形成計画の各基本方針における、交通施策の進捗と効果を検証する平成 28 年度の指標は次のとおりであった。

(1) 公共交通軸の活性化によるコンパクトなまちづくりの実現

	平成 27 年度	平成 28 年度
路面電車市内線 1 日平均乗車人数	13,577 人／日	13,889 人／日
定期路線バスの 1 日平均乗車人数	13,333 人／日	13,706 人／日

・路面電車市内線一日平均乗車人数

市内軌道の輸送状況については、年間乗客数が 4,969 千人（H27）から 5,069 千人（H28）と約 2.0% 増加した。利用目的別では、定期外が約 4.0% の減、通勤定期が約 7.7% の増、通学定期が約 9.1% の増であった。このことから、1 日あたりの平均乗車人数は 13,577 人／日（H27）から **13,889 人／日**（H28）へ約 2.3% 増加した。

増加の主な要因としては、平成27年3月の南北接続第1期開業（市内電車高架下乗入れ）に伴う利便性の向上により、定期利用者が増加傾向にあることによるものと思われる。

・定期路線バスの1日平均乗車人数

市内の路線バスの1日平均乗車人数については、13,333人／日（H27）から **13,706人／日**（H28）へ約2.8%増加した。

増加の主な要因としては、市内の高校行きバス路線の新設により、定期利用者が増加したことによるものと思われる。

（2）公共交通利用促進

項 目	平成27年度	平成28年度
ICカードによる公共交通の利用割合	66%	67%

・ICカードによる公共交通の利用割合

公共交通（富山地方鉄道の鉄道・軌道・バス、富山ライトレール・フィーターバス、まいどはやバス）の乗車人数に対するICカード（ecomyca、おでかけ定期券、passcaなど）の利用人数の割合については、1日平均利用者数が43,980人／日（H27）から44,139人／日（H28）と約0.4%増加し、1日平均ICカード利用者数についても29,108人／日（H27）から29,366人／日（H28）と約0.9%増加した結果、全体の利用割合は66%（H27）から **67%**へ約1.0ポイント増加した。

5、地域公共交通網形成計画の達成状況の評価について

富山市地域公共交通網形成計画における、公共交通の活性化に係る数値目標（公共交通1日平均利用者数の富山市人口あたりの割合）については、計画上の平成28年度の数値目標を0.2ポイント上回り（14.9%→15.1%）、交通施策の進捗と効果検証のための指標についても、平成28年度実績は全ての項目において平成27年度の実績を上回った。